



砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

胆石症とはどんな病気？

外科 医長 林 沙貴

はつごころ

胆石症は消化器病の中では頻度の高い疾患の一つです。以前は、40～50代 (Forty～Fifty)、女性 (Female)、肥満 (Fatty)、色白 (Fair) の「4F」が胆石症罹患のリスクといわれていました。2013年の日本胆道学会による全国調査では男性にやや多い傾向にあり男性・女性 (1:0.9)、受診時の年齢も60～70代が多くなっています。

胆石とは

胆石とは肝臓や胆嚢、胆管にできる結石(石)です。結石がどこにあるかによって、肝内結石、胆嚢結石、胆管結石(総胆管結石)という名称がついています(図1)。一般的には胆石症というと胆嚢結石症を指します。胆嚢結石ができる原因はいくつかあります。最も多いのはコレステロール結石といわれるもので、コレステロールが肝臓で代謝される際にコ



図1 胆道系の解剖

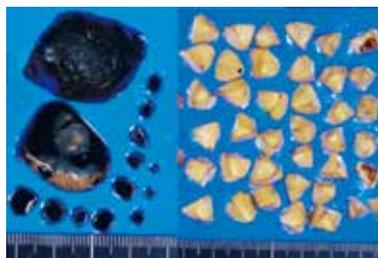


図2 (左)ビリルビン系結石 (右)コレステロール系結石

レステロールと胆汁酸のバランスが崩れコレステロールが結晶化してできます。その他の原因としては胆汁の細菌感染(ビリルビンカルシウム石)、溶血性疾患や肝硬変(黒色石)があります(図2)。

そもそも胆嚢とは何をやる臓器か

胆嚢は右上腹部にある肝臓の下面にくっついている臓器です。油脂の分解を助ける胆汁を貯蔵し濃縮する役割があります。食事を摂取すると胆嚢は収縮し胆汁は総胆管を通じて十二指腸へ流れ食べ物と合流します。

胆石症の症状

胆石を持つている人の半数は無症状であるといわれています。一般的な症状は、上腹部痛(みぞおち、右上腹部の痛み)や吐き気、嘔吐な

どのおなかの症状です。胆嚢結石や胆管結石を契機に胆嚢や胆管への細菌感染を起こすと「急性胆嚢炎」や「急性胆管炎」という病態を起こすことがあり、強い腹痛と発熱、黄疸などを認めるようになります。重症化すると敗血症という重篤な感染症を引き起こすこともあります。

胆石症の検査

胆石があるかどうかの診断はまず腹部超音波検査で行います。治療を行う前にはより詳しい検査が必要です。造影CT検査やMRI検査を行い、胆嚢に他の病気がないかや胆嚢・胆管の解剖を詳しく把握します。また、胆石の症状は上部消化管(食道、胃、十二指腸)の疾患による症状とよく似ているので、上部消化管にも病変がないかどうかを胃カメラで調べておきます。

胆石症の治療

胆石は健診や人間ドックで見つけることも多いですが、無症状の場合には通常は治療の必要がないことがほとんどです。

治療法は内科的治療(経口胆石溶解療法、体外衝撃波)と外科的治療(手術)に分かれますが手術(胆嚢摘出術)が基本であり、中でも近年では腹腔鏡手術(腹腔鏡下胆嚢摘出術)が主流です。腹腔鏡手術はおへそと右上腹部3か所に小さな切開を加えてそこからカメラなどの手術器具を入れて行う手術で、みぞおちから右わき腹にかけて15～20cmほど切開し

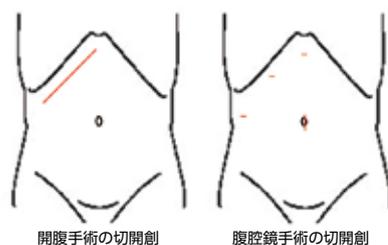


図3 手術創の違い

て行う開腹手術に比べて、術後の回復が早く整容性にも優れた「身体にやさしい手術」であるといえます(図3)。当科では術後3～4日で退院としています。

ただし以前に上腹部(胃や十二指腸)の手術を受けたことのある方や胆嚢の炎症や癒着が強い場合などでは腹腔鏡手術が難しく開腹手術へ変更して行う場合もあります。

胆嚢を摘出したあと消化吸収障害は起こらないといわれています。ときどき軟便や下痢などがしばらく続くことがあります。自然に治まることも多いです。

胆石症の方が気を付けること

胆石症の発作はストレスや脂肪の多い食事によって引き起こされるといわれています。脂肪の多い食事は控え、バランスのよい食事を心がけましょう。腹痛などの症状がある方は治療(手術)をお勧めします。腹痛に加えて発熱や黄疸があるときにはすぐに受診しましょう。